TOPICS

食と医療の安全に関する市民講座
プリオンから見た食の安全と医療の安全：プリオンはもう怖くないの？

平成19年12月16日に東京都千代田区内の星陵会館にて農林水産省、厚生労働省、ヤコブ病サポートネットワーク、全国消費者団体連絡会の後援を得て、食と医療の安全に関する市民講座「プリオンはもう怖くないの？」を開催した。

市民講座は、食と医療に関わっているプリオンについて「何が解明されていて、何が解明されていないのか」といった情報を市民の方々にわかりやすく丁寧に提供することを目的として開催された。マスコミ関係者からの講演に始まり、消費者団体、行政担当者、ヤコブ病に取り組んでいる医師、BSEやヤコブ病の研究者とそれぞれ専門の分野から計8名の方に講演をしていただいた。参加された聴衆は120名ほどであったが、講演後の討論会では参加者からBSE検査・研究、ヤコブ病診断の状況などに質問が寄せられた。参加者から、このような講座はもっと頻回に、地方などでもやるべきであるなどの意見をいただいた。これを機会に畜産物の安全と医療の安全に関わるプリオン病やプリオンに対する正しい理解が深まることを期待するものである。

（情報広報課）

天然資源の開発利用に関する日米会議（UJNR）
第42回家畜・家禽疾病専門部会日米合同会議の概要

第42回家畜・家禽疾病専門部会日米合同会議は、平成19年12月5日、動物衛生研究所で開催された（表紙写真）。米国からは本部会の米国側代表のDr. Beth N. Harris（National Veterinary Service laboratories; NVSL）の他、Ms. Donna Johnson（NVSL）、Dr. Tracy Nicholson（National Animal Disease Center; NADC）、Dr. Tyler Thacker（NADC）の4名が来日、出席した。日本側からは日本側部会長の谷口稔明動物衛生研究所長、農林水産省消費・安全局の境政人課長、動物医薬品検査所の牧江弘孝所長の他、動物衛生研究所および動物検疫所から約30名の参加があった。本会議は両国の代表者からの挨拶に引き続いて、演題の発表に移った。日本側から13題、米国側から14題の合計27題の発表があり、双方の家畜衛生状況および研究の進展状況についての情報交換が行われた。

日本側からの発表は、鳥インフルエンザ、牛海綿状脳症、豚繁殖･呼吸障害症候群、サーコウイルス、山羊関節炎・脳脊髄炎、ウエストナイルウイルス、狂犬病および豚テシオウイルス、鶏由来病原性大腸菌、パスツレラ症、乳房炎、ヨーネ病、鶏マラリア等であった。米国からは、鳥インフルエンザ、豚インフルエンザ、プリオン病、口蹄疫、ブルータング、ボルデテラ、サルモネラ、カンピロバクター、ヨーネ病、牛結核等の多様な伝染病の話題が報告された。発表の終了後に、本会議を継続実施すること、若手研究者参加による相互視察、第43回本会議は米国アイオワ州エイムズ市のNVSLで実施すること等の決議文を採択し、本会議を閉会した。

米国参加者は12月6日に沖縄県家畜衛生試験場を視察し、そこでも米国から3題、沖縄県から4題の演題を報告し、情報交換会を開催した。その翌日には、沖縄県畜産研究センターの見学をし、本合同会議の全日程を終了した。

（山口成夫研究管理監）

沖縄県家畜衛生試験場訪問